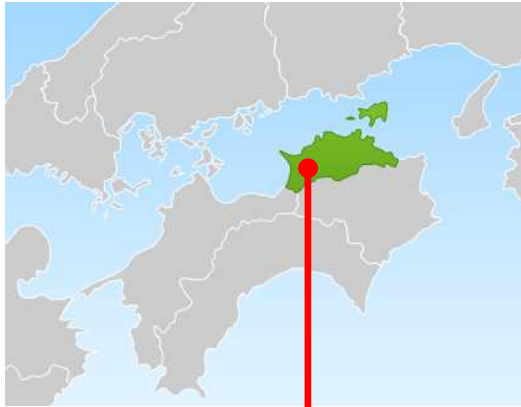


行きたいときに 行きたいところへ 行けるまち

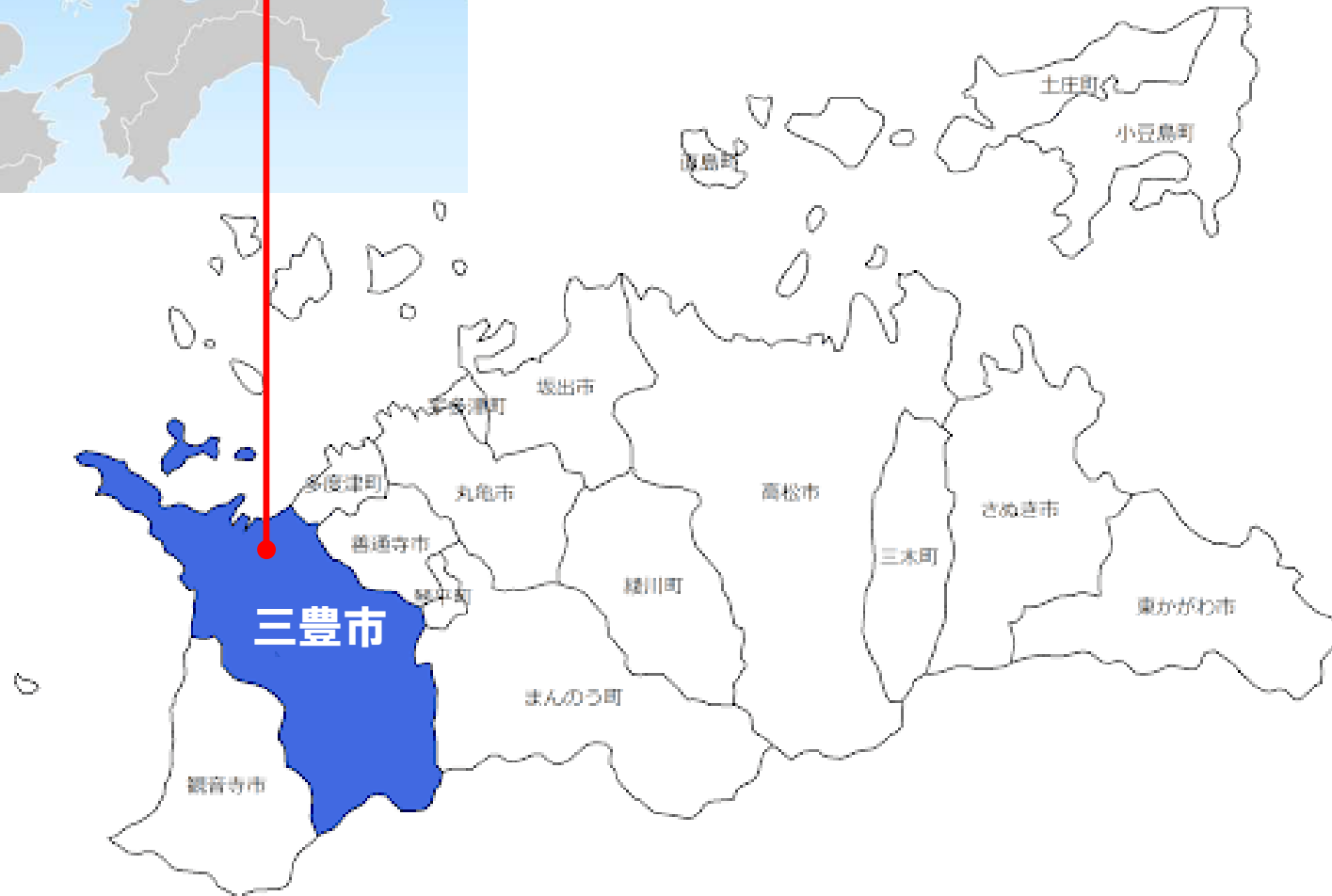


令和4年5月10日
香川県 三豊市

三豊市について



香川県三豊市



7町の
対等合併で誕生
(2006年)

人口
61,857人
(2020年)
香川県第3位

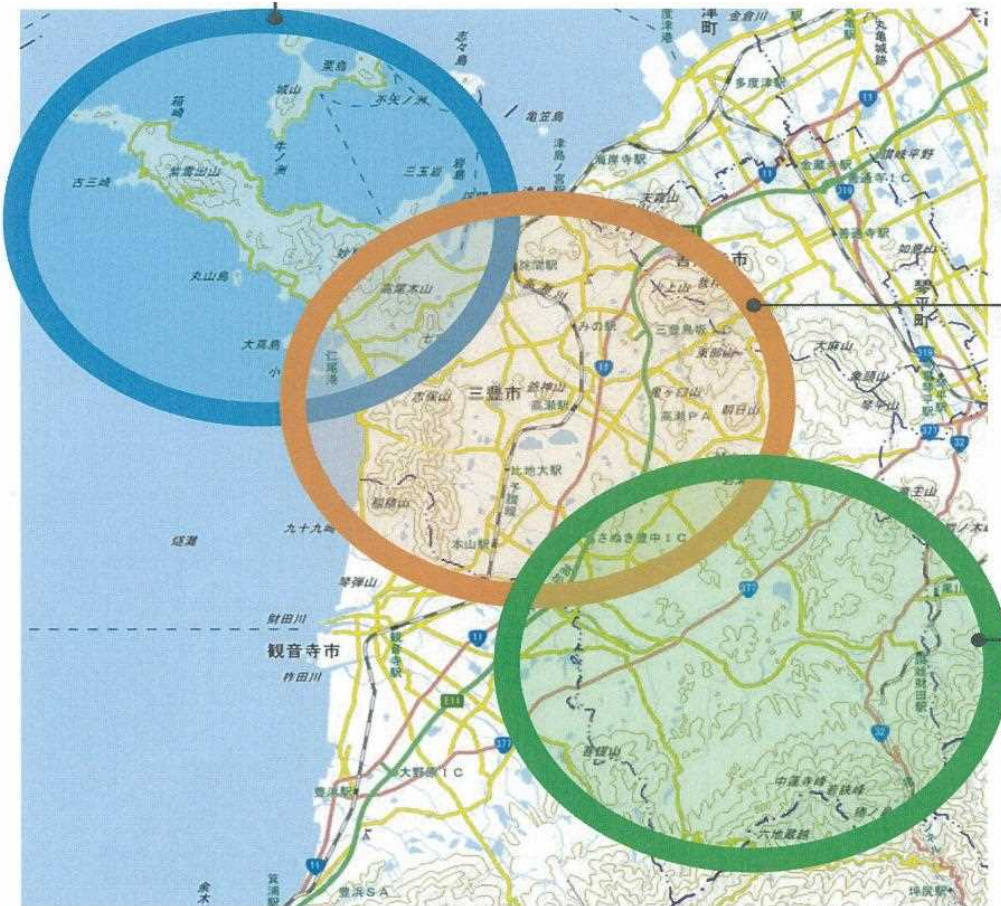
世帯数
23,083
(2020年)

高齢化率
36.5%
(2020年)

総面積
222.70km²
(2019年)
香川県第2位

三豊市について

7つの町が合併して誕生。（多極分散型のまちづくり）
特性の異なる3つのエリアに分けられる。



地図出典: 国土地理院

荘内半島と島しょ部からなる“**海のエリア**”



国道11号沿いの“**市街地エリア**”



農地が広がる“**山間部エリア**”



デジタルから生まれた観光産業



デジタルから生まれた観光産業



活発化する地域の経済活動

父母ヶ浜
ヴィレッジ
CHICHIBUGAHAMA VILLAGE



広がる地域の輪

～躍動する地域のキーパーソンたち～



点から面にそして
シェアする地域へ



新たな人流を生み出すための課題

地方では自家用車による移動が基本

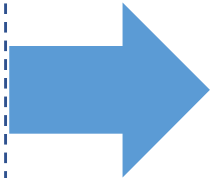
移動に困っている人の多くは
自家用車を持っていない人々

学生
高齢者
免許返納者
観光客 等



既存の交通手段を利用

J R (予讃線・土讃線)
コミュニティバス
タクシー レンタカー
観光客向けバス 等



公共交通の課題

- ・ 便数が少ない
- ・ 駅、バス停までが遠い
- ・ 送迎を頼むのに気を遣う
- ・ 外出控えによる心身の不調 等

行政単体、企業単体での対応は限界に…

**地域や関係者が一体となり、
“垣根”を超えた取組が必要！**

三豊市地域公共交通計画

基本理念

行きたいときに
行きたいところへ
行けるまち

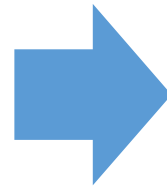
人は、“目的”を達成することで“豊かさ”を実感する

交通は、“目的”を達成するための“手段”

“手段”が充実すれば、生活はより“豊か”になる

三豊市がめざすのは…

住み慣れた場所で、
自由に移動できる、
「豊かな」生活を送れる地域



時間にあまり縛られず、“ラストワンマイル” “ファーストワンマイル”を
フォローできる移動手段があれば、
市民も観光客も、より豊かな生活を送ることができる

これからの三豊市 ~ローカルベーシックインフラの構築~

実現したい
地域の
将来像

ビジョン：三つの“豊かさ”の実現

三豊市が掲げる3本の施政の柱（健康・教育・脱炭素）を軸に、デジタル田園都市国家構想が目指す「Well-being」「Innovation」「Sustainability」という三つの豊かさを三豊市で実現・発信する。

ミッション：三豊ローカルベーシックインフラサービスの構築

地域の豊かな暮らしを支える“インフラ”を地域のプレーヤーが主導する組織がマネジメントすることで、地域により適合する小回りの利くアジャイル式のサービスを生み出し、利用者からしっかりと評価されることで利益体質を生み出す地域インフラサービス会社を作る。

サービス
領域

3
本
の
柱
の
三
豊
市
の

 健康

→Well-being

 教育


→Innovation

 脱炭素

→Sustainability

 交通

 農業

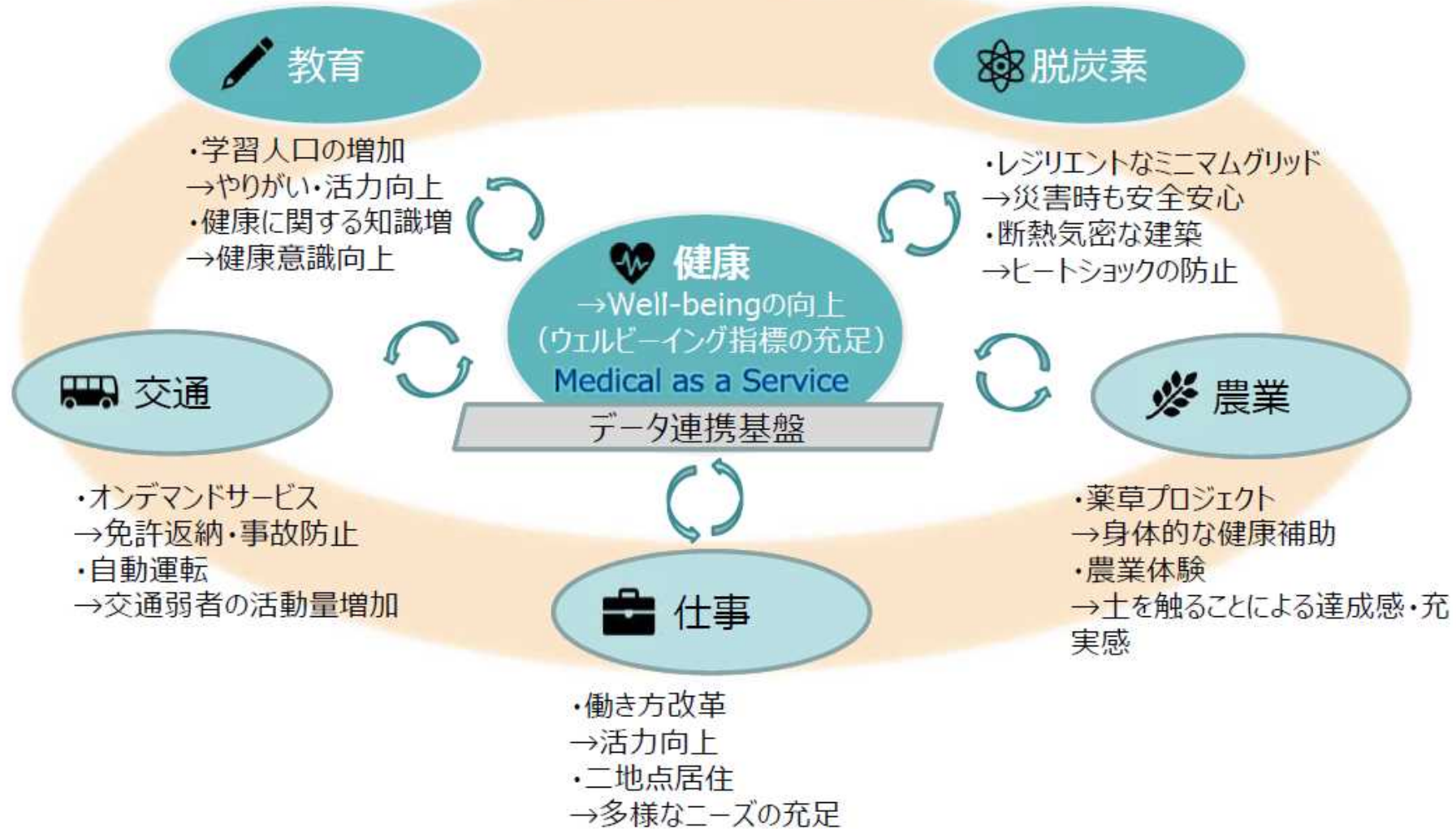
 仕事

Medical as a Service (メディカルファクトをベースにまちのデータ連携を推進)

データ連携基盤

これからの三豊市

～ローカルベーシックインフラの構築～



三豊・暮らしの交通会社 企画



企画背景

①免許を持っていない中高生などの地域移動の手段がない

⇒家族の送迎がないと、塾や習い事などができないことによる教育格差

②免許返納者の行動制限

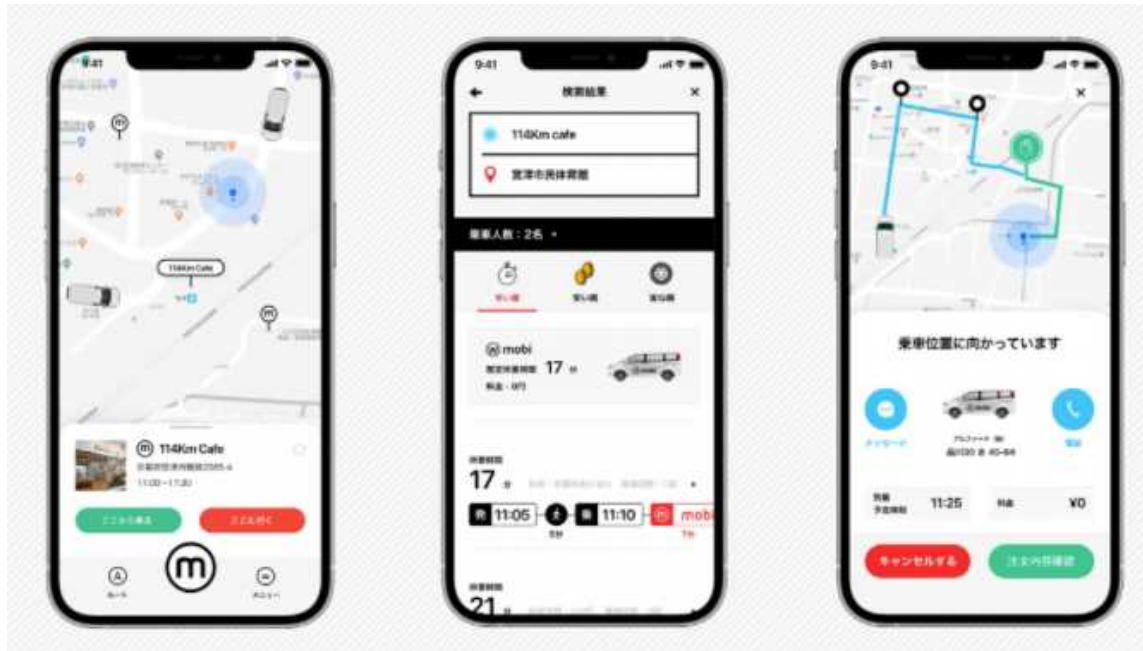
⇒家族への負担を気遣い、外出機会が減ることによる健康上の問題

③鉄道、コミュニティバス、タクシー、マイカーなどの特定移動の“中間”の交通手段がない

コンセプト



呼べばすぐ来る、エリア定額乗り放題
Community Mobility



人とひと、人とまちをつなぐ
豊かで、より健康的な暮らし
地域の安心と、環境にやさしい

すべての人に優しく思いやりのある移動が
人とひとのふれあいや出会いを増やし
街に新たな文化を生む

特徴

#



呼べば平均10分でお迎え

自分の時間に合わせて呼べる移動サービス

#



AIが最適なルートを提案

複雑な条件を計算し最適に目的地までお届け

#



アプリで対応

子供からお年寄りまで簡単利用

#



時間帯別で定額乗り放題

街の人たちとシェアする乗り放題の相乗り交通

#



家族割も

家族みんなで使える家計に優しいサービス

#



配送もデリバリーサービスも

重い荷物も、大きい荷物も即配送

運営体制

▶ 運営母体

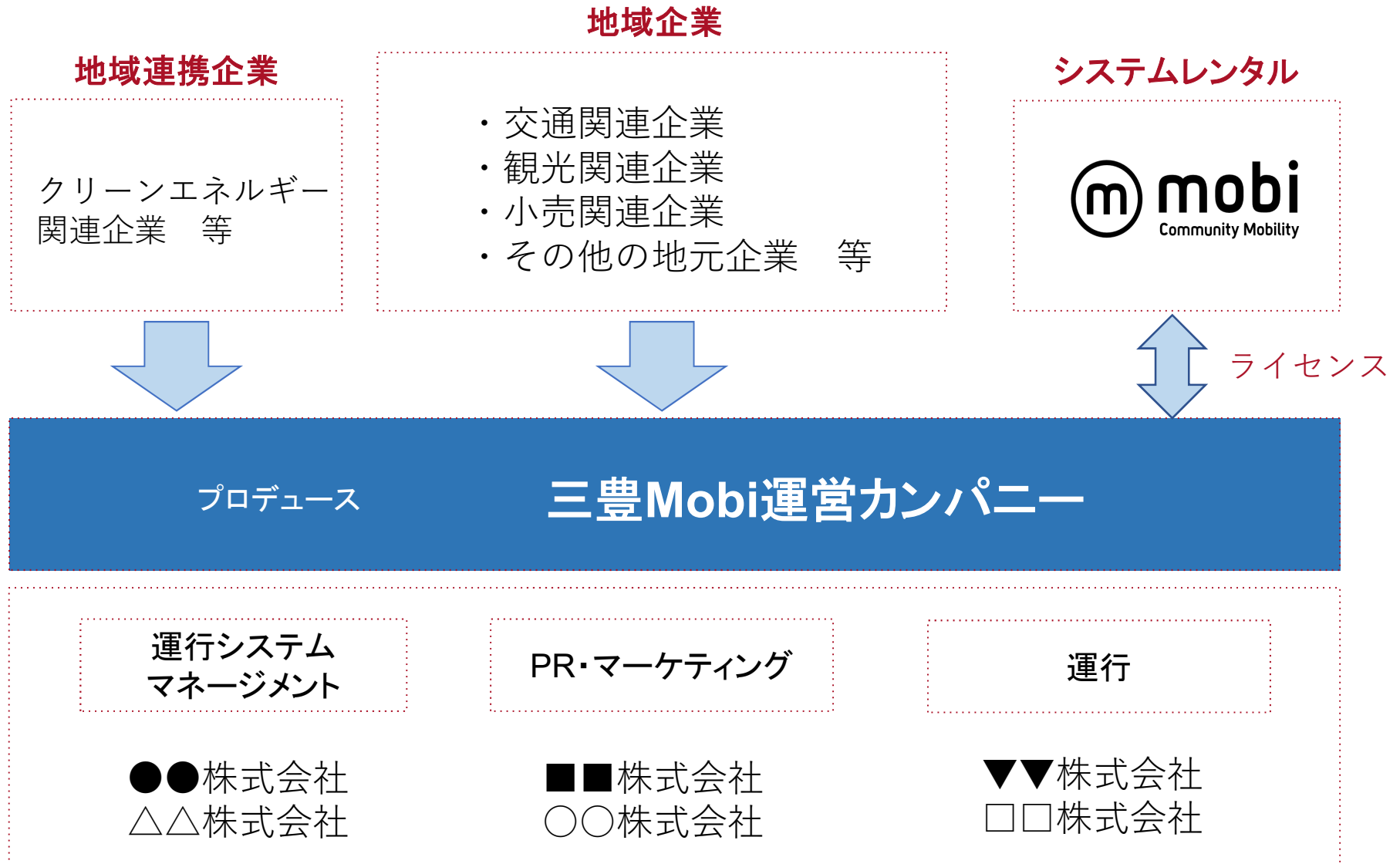
三豊Mobi運営カンパニー SPC（特別目的会社）を設立
（SPCには、地域内外の主要運営出資会社から出資を募る）

▶ 出資金 1口30万～100万程度（目標：30社）

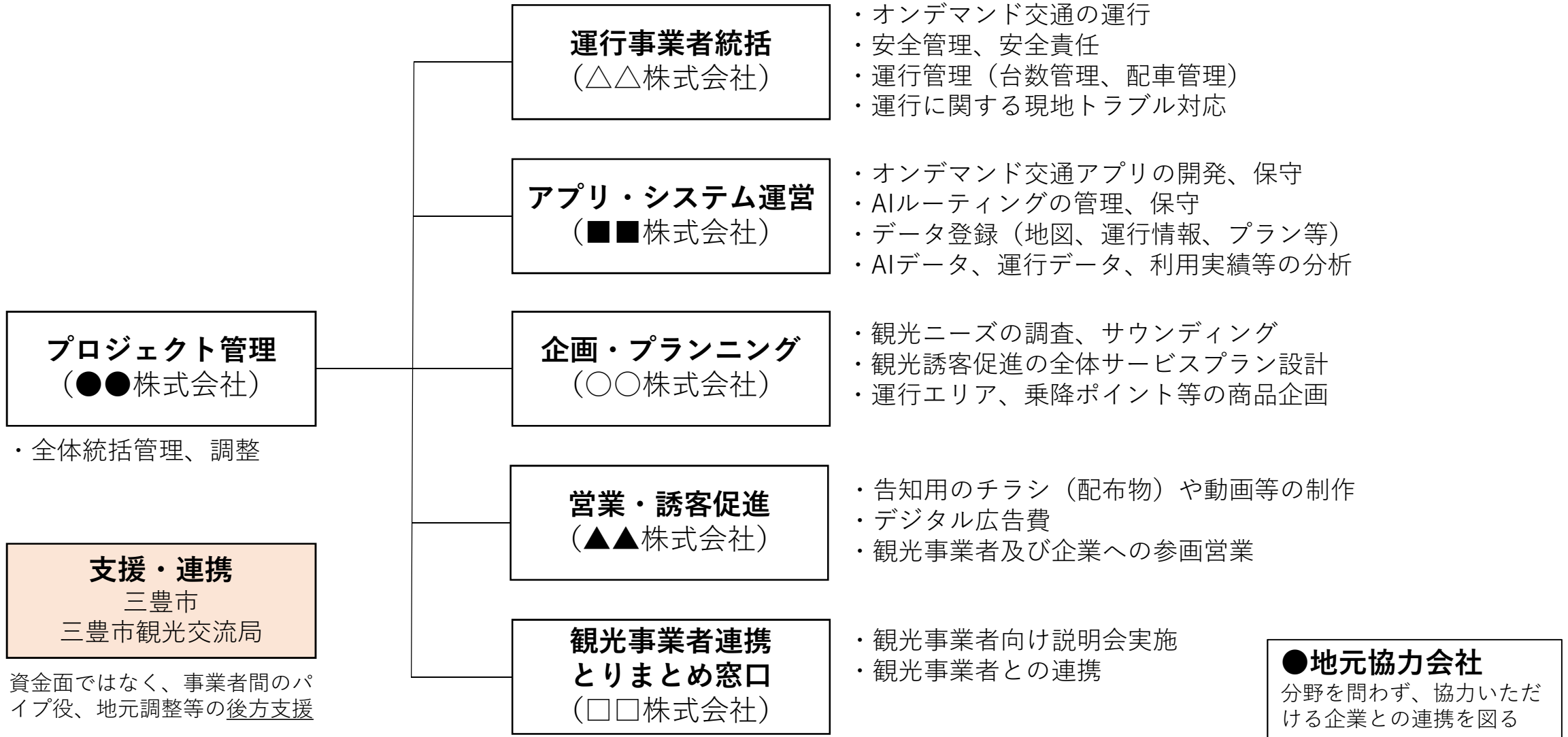
▶ 出資企業 業務内容により業務費用受け取り、株主優待等

行政は基本的に補助金等ではなく、地元調整等の後方支援による連携を想定
（市費を投入→公平性等の観点からビジネスベースでの運営が困難となる）

体制図



オペレーションフロー



これからの三豊市 ~ローカルベーシックインフラの構築~

実現したい
地域の
将来像

ビジョン：三つの“豊かさ”の実現

三豊市が掲げる3本の施政の柱（健康・教育・脱炭素）を軸に、デジタル田園都市国家構想が目指す「Well-being」「Innovation」「Sustainability」という三つの豊かさを三豊市で実現・発信する。

ミッション：三豊ローカルベーシックインフラサービスの構築

地域の豊かな暮らしを支える“インフラ”を地域のプレーヤーが主導する組織がマネジメントすることで、地域により適合する小回りの利くアジャイル式のサービスを生み出し、利用者からしっかりと評価されることで利益体質を生み出す地域インフラサービス会社を作る。

サービス
領域

3
本
の
柱
の
三
豊
市
の

 健康


→Well-being

 教育


→Innovation

 脱炭素

→Sustainability

 交通

 農業

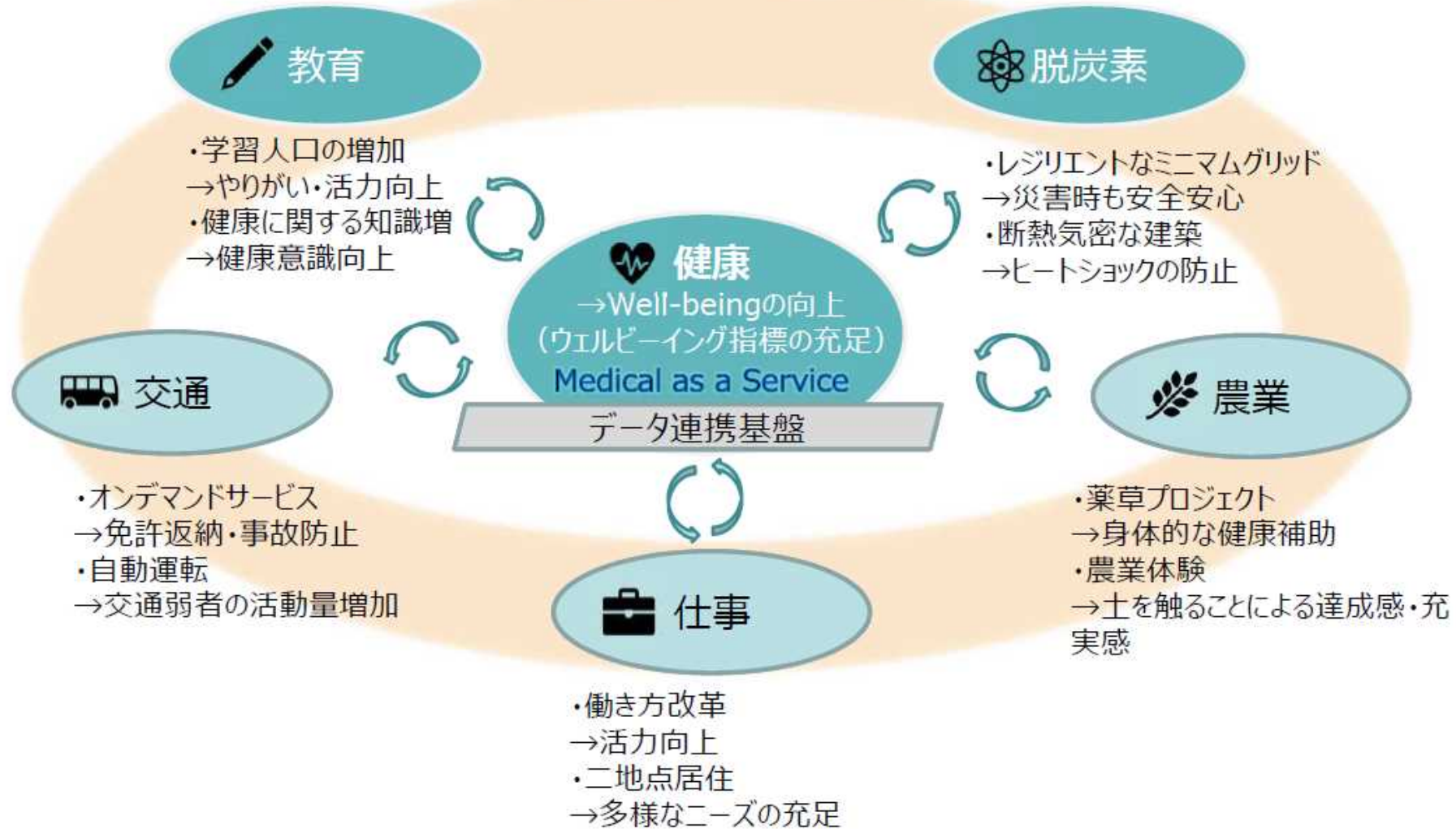
 仕事

Medical as a Service (メディカルファクトをベースにまちのデータ連携を推進)

データ連携基盤

これからの三豊市

～ローカルベーシックインフラの構築～





ご清聴ありがとうございました。
